

## 向山調節池事業概要及び用地測量説明会 質疑応答

番号	質 問	回 答
1	向山調節池は、白子川の整備において必須となる工事なのか。また、堀込形式で貯留するために必要な量を確保するために必要な面積なのか。構造を変更する考えはあるのか。	荒川水系の河川整備計画において、調節池下流の安全度を確保するために11tの流量を貯留するように位置付けられており、白子川において重要な役割を持っています。なお、計画の策定にあたっては、専門家の方々からの意見や県民コメントの手続きを行い定めております。調節池は、基本計画の中で必要となる容量や構造を検討した結果、完成イメージ図のように、地形地物で囲まれた範囲が必要となるエリアになったものです。なお、池の基本構造は、増水時に自然に越流堤から水が入り、白子川の水位が下がった後に排水樋管から自然に水が流れていくという構造となっており、このような構造で整備したいと考えております。また、既存の親水施設の取り扱いについては、今後反映させていくことが必要と考えております。
2	工事着手はいつぐらいになるのか。また工事完成は何年後なのか。	相当の額の事業費となる見込みであり、地権者の皆様のご協力と予算措置が必要であるため明確に申し上げられませんが、4～5年で工事着手するのは厳しいと考えています。皆様のご協力をいただきながら早期に完成したいと考えていますが、10年後なのか15年後なのかは、明確ではございません。
3	島忠さんの撤退後、工事を行うのか。	今後、島忠さんを含め地権者の皆様に事業へのご協力をお願いしていきたい。
4	スケジュール感について、用地交渉はいつごろからか。協力できないという意思表示はできるのか。2～3年後に立ち退く必要があるのか。島忠さんが営業できなくなるのはいつごろか。	まず、今年度の用地測量を実施させていただき、この測量結果を踏まえて個別に事業へのご協力をお願いさせていただきたいと思っており、ご意向を踏まえながら、物件調査等を行ったうえで契約の交渉という流れになります。建物の物件補償や用地補償の算定には数か月かかり全体としてどのような評価になるかご説明させていただきます。その後、土地をお譲りいただけとなった際に予算を確保していくこととなるため、立ち退きとなる時期は、もう少し先になるかと思っております。島忠さんのご意向を把握していないため、今後個別に話をしていくなかでスケジュールを立てていくことになるかと思っております。